

2006年度 決算概要

代表取締役社長 西尾 進路

常務取締役 平井 茂雄

<http://www.eneos.co.jp>

2007年4月26日



新日本石油
Your Choice of Energy

＜本日の説明内容＞

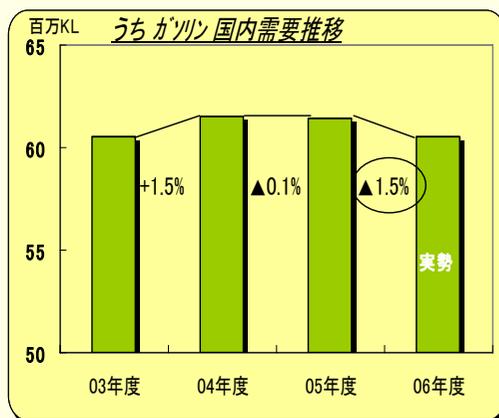
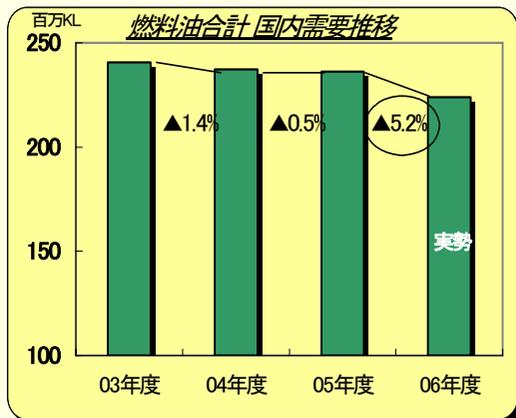
1. 06年度決算サマリー
および第3次中計の進捗状況
2. 06年度の取り組み
および07年度以降の方向性
3. 06年度決算概要
4. 07年度決算見通し概要

1. 06年度決算サマリー および第3次中計の進捗状況

<06年度の事業環境>

〔石油製品事業〕

● 石油製品需要減少



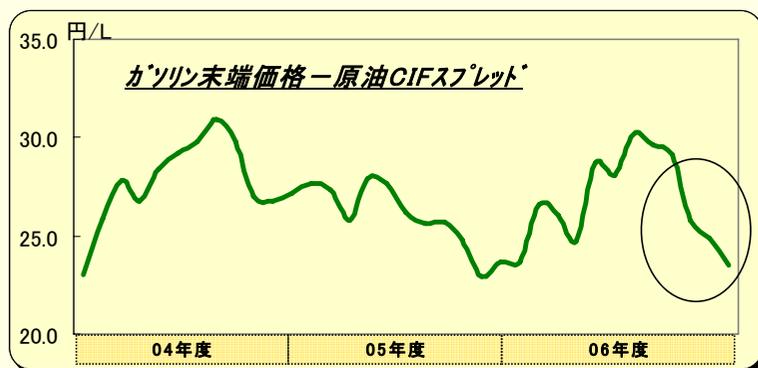
〔石油化学製品事業〕

タイトなアジア需給を反映

● 高水準のスプレッドが継続



● 厳しいマーケット環境



〔石油・天然ガス開発事業〕

● 原油価格 高止まり

● 資源獲得 競争激化

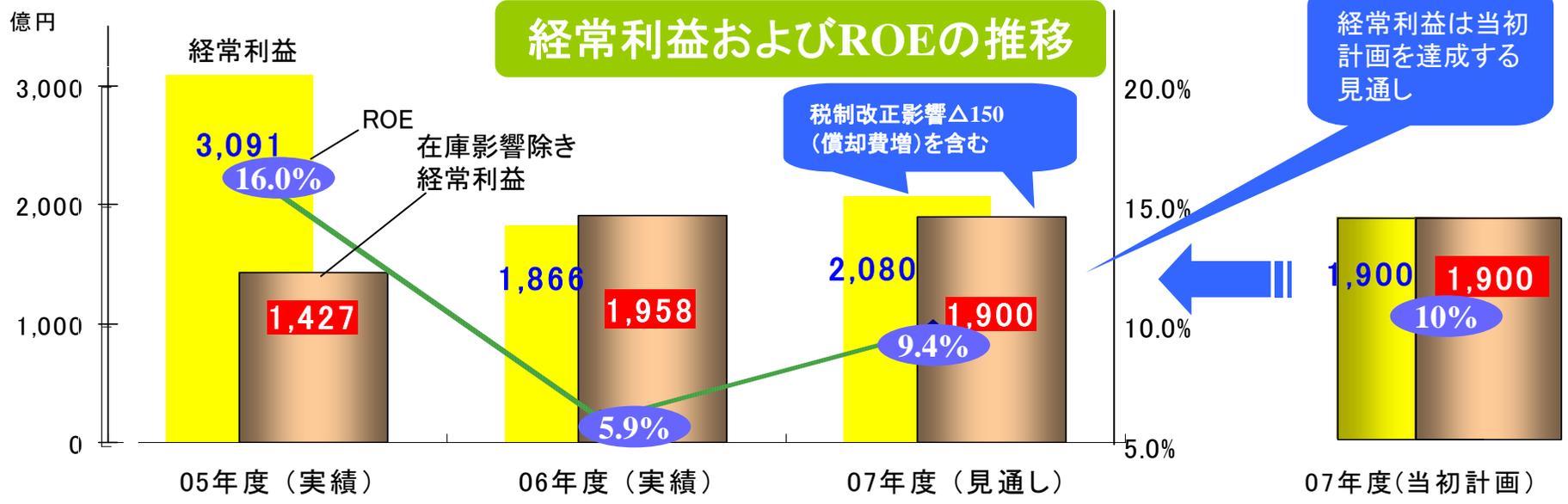


<06年度決算サマリー>

	05年度実績 億円	06年度実績 億円	増 減 億円
営業利益 (在庫影響除き)	3,039 (1,375)	1,597 (1,689)	△1,442 (+314)
営業外損益	52	269	+217
経常利益 (在庫影響除き)	3,091 <u>(1,427)</u>	1,866 <u>(1,958)</u>	△1,225 <u>(+531)</u>

石油・天然ガス開発事業および石油化学製品事業の増益等により、在庫影響除き経常利益は、+531億円の増益。

<第3次中計目標および計画の達成見通し>



ドバイ原油価格 (\$/Bbl)	53.5	60.9	58.2	35.0
WTI原油価格 (\$/Bbl)	56.6(1-12月)	66.3(1-12月)	61.8(1-12月)	40.0(1-12月)
為替レート (円/\$)	112.7	117.0	119.8	105.0

	05年度(末) 〈実績〉 (億円)	06年度(末) 〈実績〉 (億円)	07年度(末) 〈見通し〉 (億円)	05~07年度計 〈見通し〉 (億円)	05~07年度計 〈当初計画〉 (億円)
コスト削減・効率化	△69	±0	239	170	330
設備投資	1,898	2,048	2,374	6,320	5,000
有利子負債残高 (ネットDEレシオ(%))	12,126 (88%)	12,971 (84%)	11,500 (72%)		07年度末 9,000以下 (70%程度)

2. 06年度の取り組み および07年度以降の方向性

<石油精製・販売事業①—石油製品事業>

06年度の主な取り組み

国内:効率化・生産性向上

海外:ビジネスチャンスをつめる

◆適正な販売価格の形成(原油コスト上昇分の転嫁)



マージン確保

◆製油所トラブル解消に向けた取り組み強化



製油所競争力強化

(安全対策投資前倒し、製油所プロジェクト外室設置等)

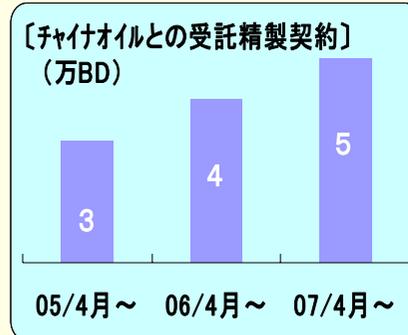
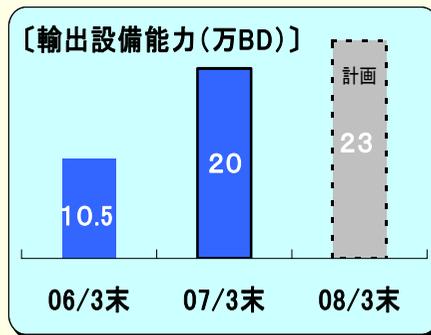
◆提携戦略強化



精製・物流等効率化

アジア展開強化

◆輸出拡大



アジア需要取り込み
製油所競争力強化

◆海外潤滑油事業拡大(中国、米国で新規潤滑油工場立ち上げ)



海外展開強化

07年度以降の方向性

07年度石油製品事業コスト削減額 242億円

2006年度→2011年度
国内石油製品需要 年率 ▲1.8%
〔資源エネルギー庁予測〕

・需要減少が続く中、国内石油製品事業の効率化を徹底

・海外戦略の強化(提携戦略強化、輸出等)

2005年度→2010年度
アジア(日本・韓国除き)石油製品需要
年率 +3.9% 〔IEA予測〕

<石油精製・販売事業②－石油化学製品事業>

■06年度の主な取り組み

*CRI=Chemical Refinery Integration 石油精製と石油化学の一体化

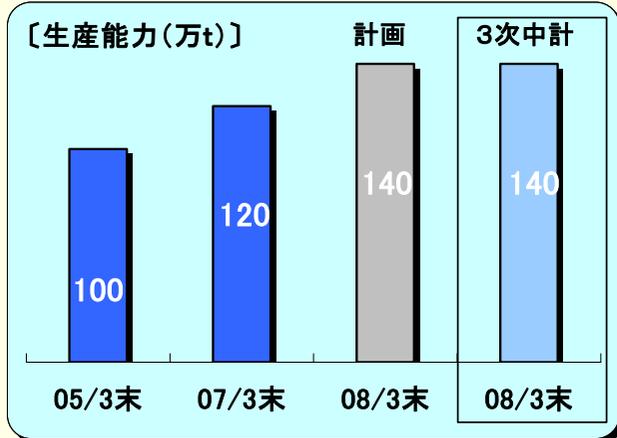
堅調なアジア需要

国内最大の精製能力
を生かしCRI*を推進

石化生産能力拡大

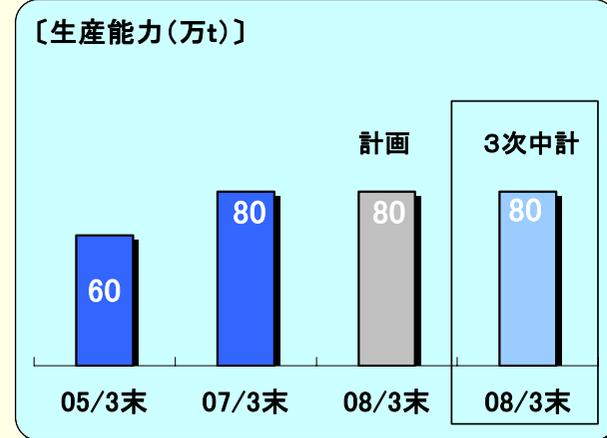
アジア輸出を拡大

●パラキシレン



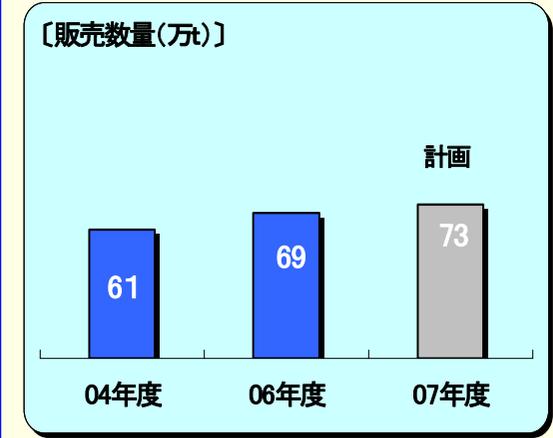
- ◆三菱ガス化学との協業化(06/4～)
- ◆仙台製油所キシレン増産設備建設等により、能力増強

●プロピレン



- ◆川崎工場プロピレン製造装置新設等により、能力増強

●ベンゼン



- ◆CRI推進によりベンゼン増産

■07年度以降の方向性

・アジア需給を慎重に見極めながら、引き続きCRIを推進し、石化生産能力拡大

<石油・天然ガス開発事業>

■06年度の主な取り組み

05～06年度は、原油高騰下
投資採算重視の姿勢を堅持

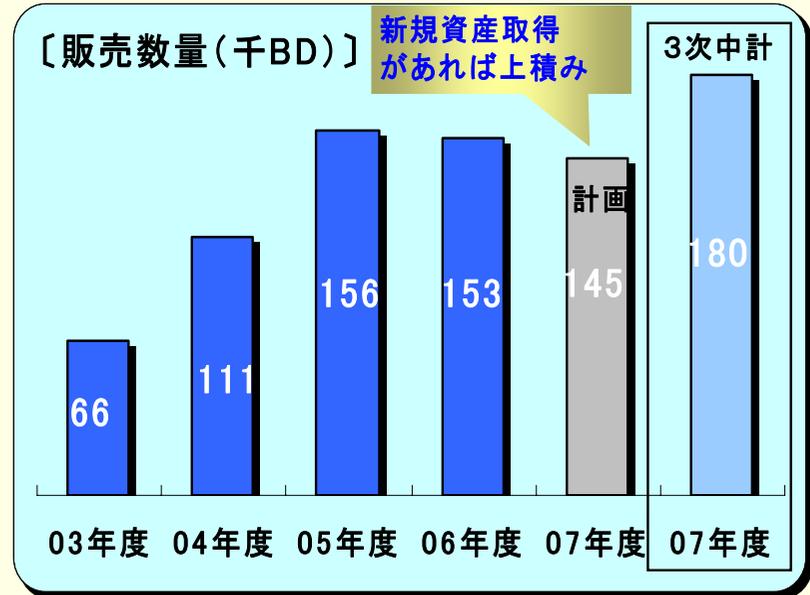
◆06年度新規生産資産取得はゼロ

◆既存プロジェクト生産は概ね順調

- ・パプアニューギニア :SEマナダ油田生産開始
- ・カナダ(オイルサント) :増産設備稼働開始

◆英国北海 新探鉱区取得(6鉱区)

うち4鉱区は当社がオペレーター(操業管理会社)



■07年度以降の方向性

- ・当社の得意なエリア(東南アジア、オセアニア、英国北海、米国メキシコ湾)を中心に事業を拡大(新規生産資産取得・探鉱)

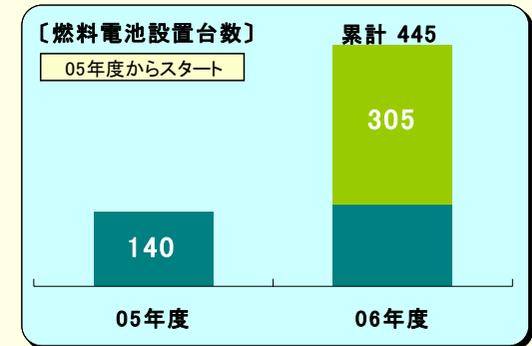
当社の技術・ノウハウの
積み上がったエリア

<新エネルギー事業（燃料電池・電気・ガス等）>

■06年度の主な取り組み

将来の布石として着実に施策を実行

- ◆燃料電池 : ジャパンエナジー、コスモ石油と提携
- ◆LNG : 水島LNG基地、八戸LNG基地運転開始
16万KL 4,500KL
2基目建設も決定
- ◆GTL : 「日本GTL技術研究組合」を設立し、共同実証研究開始
(Gas-To-Liquids、天然ガスの液体燃料化)
- ◆バイオマス燃料 : 「バイオマス燃料供給有限責任事業組合」設立、ETBE共同輸入開始
- ◆石炭 : 豪州バルガ炭鉱新鉱区開発決定(当社出資15.2%のオークブリッジ社が開発)



■07年度以降の方向性

- ・早期収益化に向けた取り組みを強化

3. 06年度決算概要

<06年度損益概要>

	05年度実績	06年度実績	増 減
原油価格(\$/Bbl)	54.0	61.3	+7.3
為替レート(円/\$)	112.7	117.0	+4.3
ジョイント等除き 販売数量(万KL)	7,285	6,717	△568
	兆 億円	兆 億円	億円
売上高	61,180	66,243	+5,063
営業利益 (在庫影響除き)	3,039 (1,375)	1,597 (1,689)	△1,442 (+314)
営業外損益	52	269	+217
経常利益 (在庫影響除き)	3,091 (1,427)	1,866 (1,958)	△1,225 (+531)
特別損益	△108	△144	△36
当期純利益	1,665	702	△963

<06年度セグメント別営業利益の増減(前年比)>

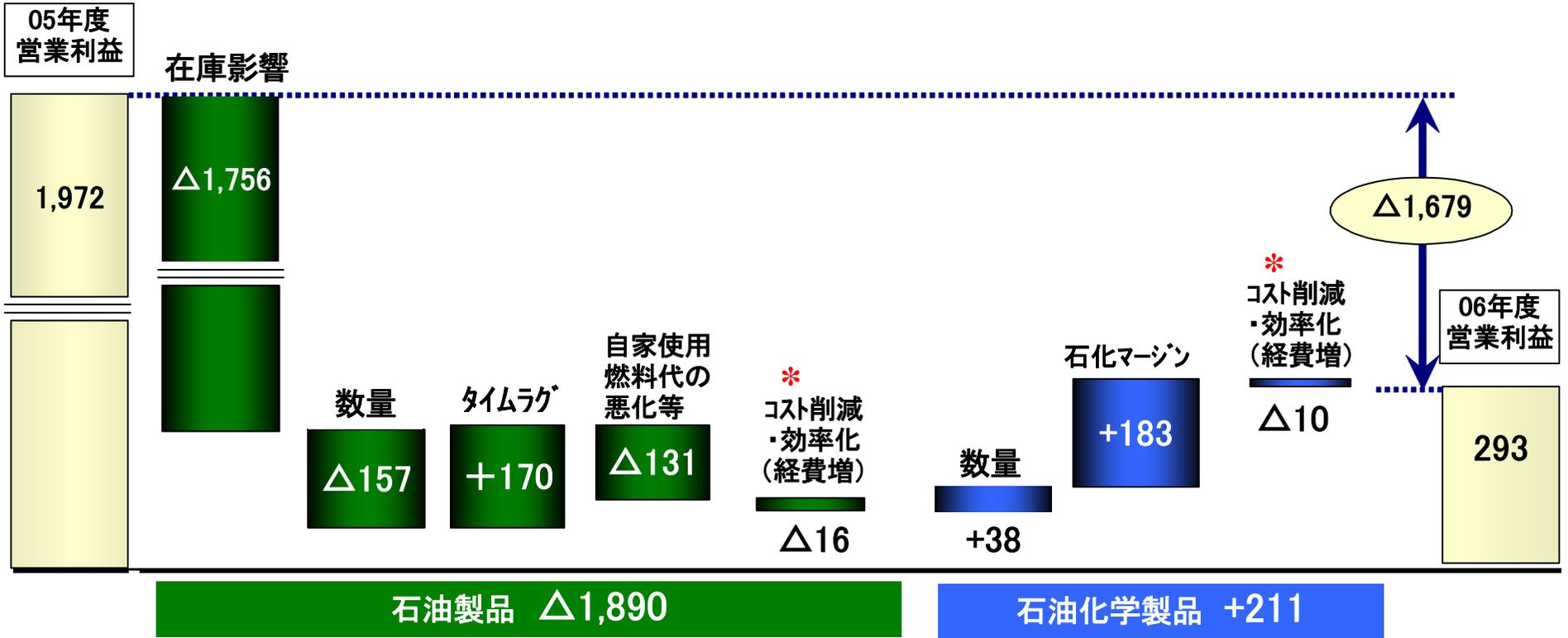
〔セグメント別営業利益〕	05年度(実績)	06年度(実績)	増 減	(参考)経常利益
	億円	億円	億円	06年度(実績)
I. 石油精製・販売	1,972	293	△1,679	472
(在庫影響除き)	308	385	+77	564
うち 石油化学製品	398	609	+211	603
II. 石油・天然ガス開発	921	1,138	+217	1,239
III. 建設・その他	146	166	+20	155
営業利益計	3,039	1,597	△1,442	1,866
(在庫影響除き)	1,375	1,689	+314	1,958

<05→06年度 石油精製・販売部門 営業利益増減分析>

営業利益減(△1,679億円)のポイント

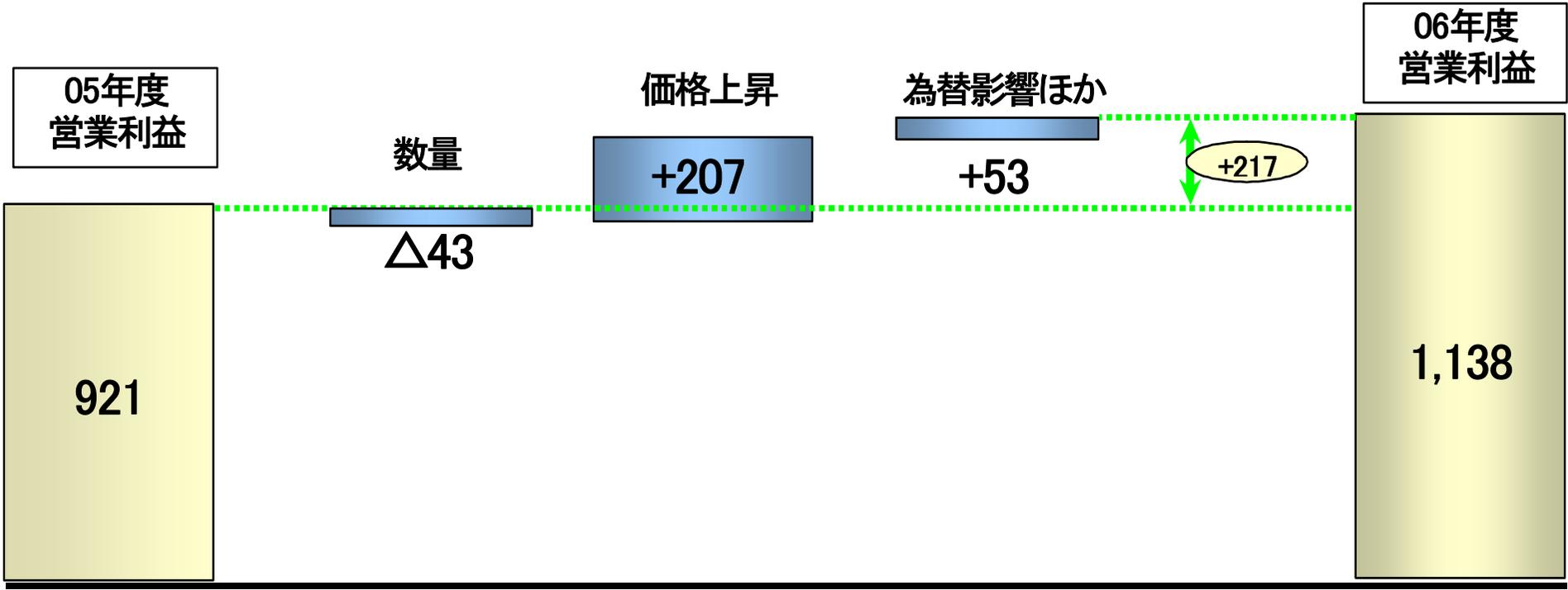
- ・在庫影響が大幅に悪化(プラスからマイナスへ)
- ・ほぼ全油種にわたり、石油製品の販売数量が減少
- ・CRI推進により石化数量増
- ・パラキシレン、プロピレンを中心に石化マージンは良化

*コスト削減・効率化計 ±0	
・石油製品	△16
・石油化学製品	△10
・建設・その他	+26



<05→06年度 石油・天然ガス開発部門 営業利益増減分析>

営業利益増(+217億円)のポイント
・原油価格の上昇により販売価格が上昇



4.07年度決算見通し概要

<07年度損益概要>

	06年度実績	07年度見通し	増 減
原油価格（\$ / Bbl）	61.3	58.5	△ 2.8
為替レート（円 / \$）	117.0	119.8	+ 2.8
シ、ポイント等除き 販売数量（万 KL）	6,717	6,800	+ 83
	兆 億円	兆 億円	億円
売上高	66,243	67,600	+ 1,357
営業利益 （在庫影響除き）	1,597 (1,689)	税制改正影響 △150含む （償却費増） 1,900 (1,720)	+ 303 (+ 31)
営業外損益	269	180	△ 89
経常利益 （在庫影響除き）	1,866 (1,958)	税制改正影響 △150含む （償却費増） 2,080 (1,900)	+ 214 (△ 58)
特別損益	△ 144	150	+ 294
当期純利益	702	1,180	+ 478

<07年度セグメント別営業利益の増減(前年比)>

〔セグメント別営業利益〕	06年度(実績)	07年度(見通し)	増 減	(参考)経常利益
	06年度(実績)	07年度(見通し)	増 減	07年度(見通し)
I. 石油精製・販売	293	732	+439	892
(在庫影響除き)	385	552	+167	712
うち 石油化学製品	609	660	+51	643
II. 石油・天然ガス開発	1,138	1,019	△119	1,044
III. 建設・その他	166	149	△17	144
営業利益計	1,597	1,900	+303	2,080
(在庫影響除き)	1,689	1,720	+31	1,900

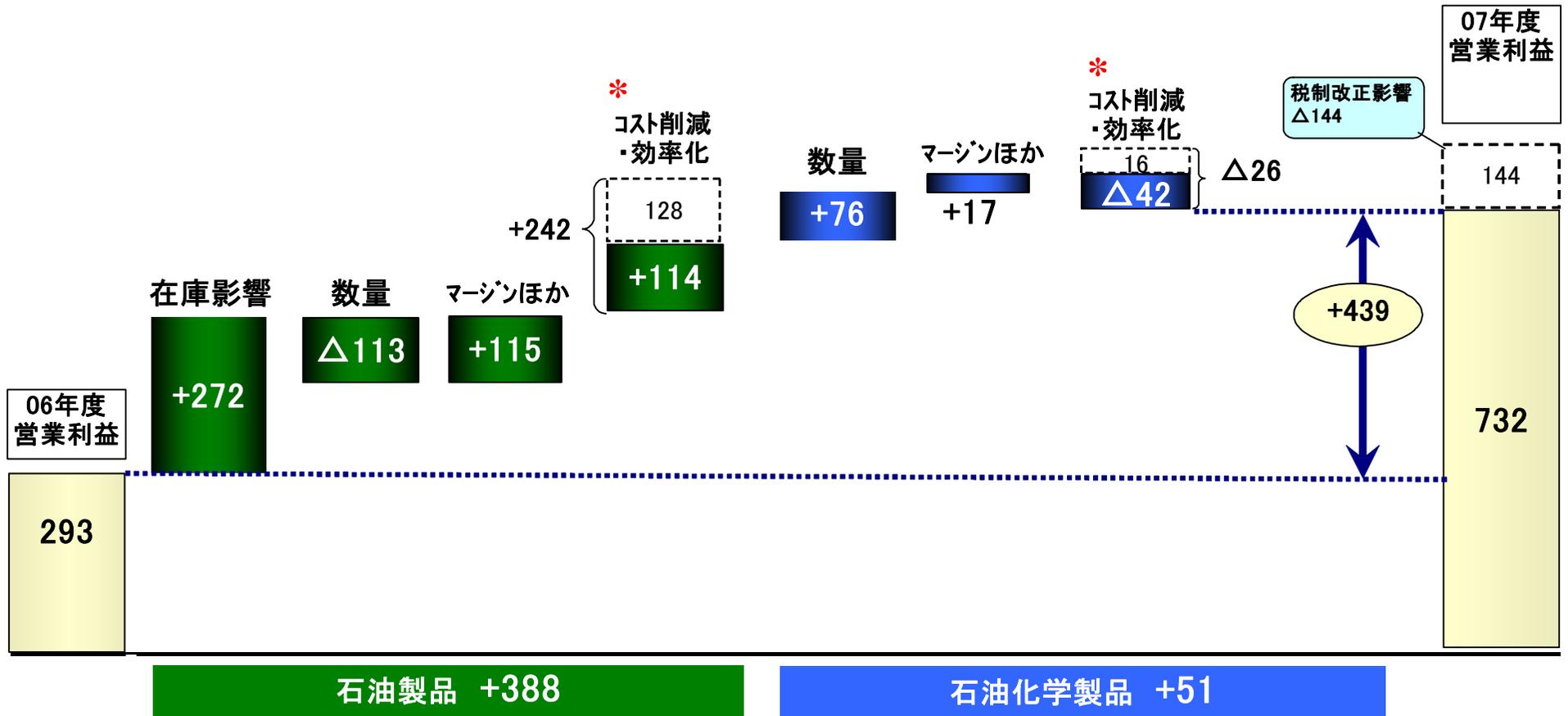
<06→07年度 石油精製・販売部門 営業利益増減分析>

営業利益増(+439億円)のポイント

- ・在庫影響がマイナスからプラスへ
- ・国内石油製品(ガソリン・中間3品・C重油等)の販売数量が減少
- ・コスト削減・効率化進捗
- ・CRI推進により石化数量増

*
[コスト削減・効率化内訳]

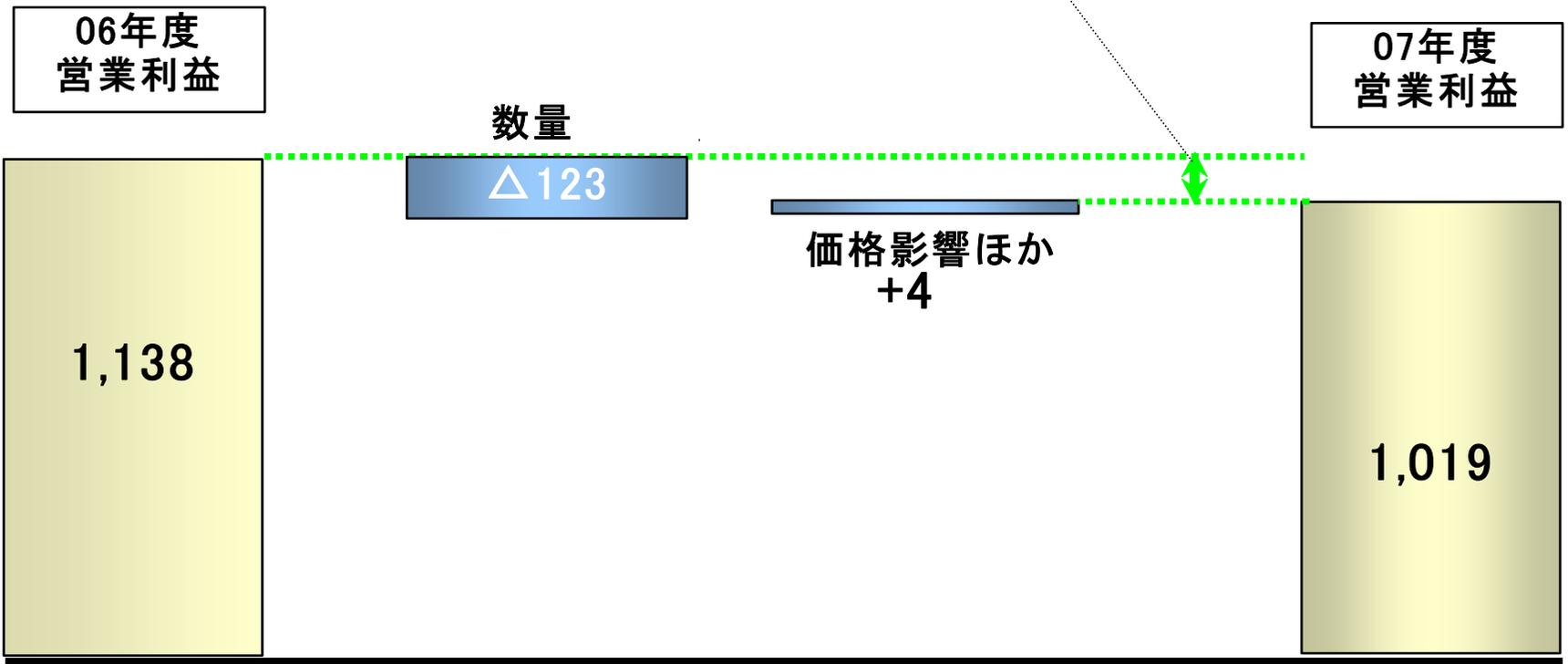
	コスト削減・効率化	税制改正影響	損益影響計
石油製品	+242	△128	+114
石油化学製品	△26	△16	△42
建設・その他	+23	△6	+17
合計	+239	△150	+89



<06→07年度 石油・天然ガス開発部門 営業利益増減分析>

営業利益減(△119億円)のポイント

- ・販売数量が減少
(新規資産の取得はゼロの前提)



＜見通しに関する注意事項＞

本資料に記載されている当社の業績見通し、経営目標等のうち、歴史的事実でないものにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営陣が判断したものであります。

実際の業績等につきましては、さまざまな要素により、これらの業績見通し等と大きく異なる結果になりうることをご承知置き下さい。従いまして、業績見通し等に全面的に依拠して投資判断を下すことは、控えていただきますようお願いいたします。

なお、実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、原油価格、石油製品の需要動向および市況、為替レートならびに金利の動向が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

<06年度 油種別販売数量(単体)>

	05年度実績	増減率	06年度実績
	万KL	%	万KL
揮 発 油	1,450	▲3.2	1,403
(ハ イ オ ク)	(274)	(▲9.9)	(247)
(レ ギ ュ ラ ー)	(1,161)	(▲1.6)	(1,142)
ナ フ サ	216	▲16.8	180
ジ エ ッ ト	117	+6.2	125
灯 油	748	▲18.6	608
軽 油	861	▲3.5	830
A 重 油	809	▲13.0	704
C 重 油	884	▲18.7	719
(電 力 C 重 油)	(459)	(▲19.9)	(368)
(一 般 C 重 油)	(425)	(▲17.3)	(351)
内 需 燃 料 油 計	5,085	▲10.1	4,569
原 油	252	▲3.5	243
化 学 品	389	▲1.4	384
潤 滑 油 ・ 特 品	287	▲5.2	272
輸 出 燃 料 油 ほか	1,272	▲1.8	1,249
ジ ョ イ ン ト 等 除 け 計	7,285	▲7.8	6,717
ジ ョ イ ン ト 等	1,981	+4.2	2,063
総 計	9,266	▲5.2	8,780